株式会社 地域環境計画

2003. SPRING
No.18

News Letter

天売島のウトウ

ウトウの巣穴

まだまだ寒さが残る2月下旬北海道の天売島ではウトウがコロニー（集団繁殖地）に姿を現します。ウトウはチドリ目ウミスズメ科の鳥類で、繁殖期以外は海上で暮らし、イカナゴ等の小型の魚を主食として暮らしています。繁殖期は2月下旬～7月下旬で、日中の殆どを海上で過ごし、日没後、一斉にコロニーへ帰巣します。育雛は、草本等の植物が生育する土壌に穴を掘り、その中で行います。この穴は天売島の南端にあたる赤岩展望台付近の斜面に無数にあり、ここが世界最大のウトウのコロニーとなっています。

私は7月初旬に天売島を訪れました。羽幌町から天売島へ向かう航路で、5羽～10羽ほどの小群となってパタパタと海面際を飛翔移動するウトウ達が目に付きました。その後、ウトウを見ることができたのは日没時の赤岩展望台です。一斉に帰巣した親鳥を待つ幼鳥とウミネコ。親鳥が持ち帰った魚を奪うため、ウミネコも親鳥の帰りを待っていました。

日没後の大騒ぎが過ぎ、人もウミネコもウトウの親鳥も姿を消し、波の音しか聞こえなくなった午前零時頃、草むらから周遊道路に飛び出て走り回る黒い影。どうやら巣立ち雛のようです。何も知らない雛たちは一生懸命走る走る。私にぶつかっても恐れることなく、また走り始めました。ウトウの巣立ちは真夜中に行われ、ひっそりと力強く海へと向かいます。

小群で飛翔するウトウ

ウトウとウミネコ（餌の争奪戦）

餌を捕られたウトウの親鳥

餌を捕られたウトウ親鳥と
親を待っていた幼鳥

近年、網を使う漁による混獲や油汚染等の人為的要因でウミスズメ類の生息数は減少しています。日本に生息するエトピリカやウミガラスの生息数は顕著に減少し、現在では絶滅の危機に瀕しています。

ウトウは？というと、ロシアのモネロン島では一時期激減しましたが、天売島では現在約30万羽～60万羽が生息しており、モネロン島のウトウや日本に生息するエトピリカ、ウミガラスのように顕著な減少傾向は見られません。しかし、1997年1月に中国四国地方で起きた「ナホトカ号重油流出事故」では、合計486羽のウトウが重油の犠牲にあって漂着しました。また、ウトウは潜水を行って餌を捕るため、漁の定置網や流し網に掛かり溺死するという事故も多く発生しています。

ウトウを始めとするウミスズメ類を絶滅に追いやる力は、悲しいことに、間違いなく人の力です。しかし、絶滅に瀕したウミスズメ類を救うのも人の力です。救うというより自分の尻を拭うと言った方が正しいかもしれませんが、私は救うという言葉を礎にこれからも鳥好きであろうと思います。

（北海道支社自然環境調査室・松岡和樹）

参考文献
◆まもろう鳥みどり自然((財)日本鳥類保護連合 1997）
◆島の野鳥（寺沢孝毅 2000）
◆極東の鳥類17 海鳥類特集（極東鳥類研究会 2000）

ウトウの幼鳥

目次

エッセイ 天売島のウトウ 1
話題 注意！マダニやツツガムシの媒介性感染症 2
マンガ 調査員物語 5
Reports 植物の移動 6
ある日のフィールドノートから セッカ 8